

「食」の大切さを知るために



6月14日(水)、農業協同組合による食農教育の補助教材本の贈呈式が、市役所で行われました。

式では、JA愛媛たいき代表理事専務の田淵博幸^{ひろゆき}さんから市内小学校に約450冊の教材本が贈呈されました。二宮教育長は「大洲市では、食育について昔から力を入れてきた。人の営みの中で、農業は欠かすことのできない存在であり、この機会にさらなる食の大切さについて理解をしてもらいたい」とあいさつしました。

秋の収穫が今から楽しみ



6月4日(日)、^{かしだに}榎谷棚田保存会主催の「2017年田植え祭」が、戒川榎谷地区で開催されました。

棚田オーナー、大洲農業高等学校や愛媛大学農学部^{しゅうぶ}の学生など約100人が田植えを体験しました。終了後には、保存会の城本代表と清水市長から「オーナー認定書」が手渡されました。

保存会は、高齢化や担い手不足の中、棚田を守るため、棚田オーナー制度に取り組んでいます。棚田オーナーは、1区画(100㎡) 3万円の年会費で、春には田植え、秋には稲刈り体験ができ、収穫されたお米や農産物が送られます。

親子で田植え体験

6月17日(土)、親子米作り体験2017の事業のひとつである田植え体験が、東大洲の水田にて開催されました。この事業は、米作りを通して自然に親しみ、食と農についての理解や関心を深めるために毎年この時期に行われています。

この日参加した約90人の親子は、大洲市青年農業者協議会員から苗の植え方の説明を受けた後、実際に水田に入り、一つ一つ丁寧に植えていました。なお、10月には収穫祭も予定しています。



梅雨の中休み「鮮やかな花ショウブ」

6月11日(日)、^{くしゅう}櫛生しょうぶ園において、「櫛生しょうぶ祭り」が開催されました。約1,500株1万本の花ショウブが満開となり、ショウブとしては珍しい黄色の花が、紫色や青色の中でひととき目立っていました。

この日のために、1年かけて地元のみなさんが世話をしたかいもあって、約1,200人の見物客が詰めかけました。イベントでは、恒例の釣り堀や流しそうめん、地元ならではのサザエのつぼ焼きなどに行列ができ、舌鼓を打っていました。



高齢者叙勲

瑞宝双光章



高岡 政義^{まさよし}さん
(五郎)
元法務事務官

高岡さんは、長年にわたり法政業務に尽力されたご功績により、このたび「瑞宝双光章」を受章されました。

泥にも負けず大熱戦

6月18日(日)、第23回どろんこミニバレー大会が白滝公民館柴分館前の水田にて開催されました。この大会は、水田でのゲームを通して、地域住民の交流や農業への理解を目的に毎年開かれています。

今年の大会には、小学生の部5チームと一般の部24チームの29チーム約260人が参加しました。泥まみれになりながらも懸命にプレーする姿に、観客から大きな歓声が上がっていました。



サイクリングの普及を目指して ～大洲市サイクリング協会設立～

6月21日(水)、大洲市サイクリング協会の設立総会が市役所で行われました。総会では、市内15のサイクリング団体の代表者が出席し、平成29年度事業計画などを話し合いました。

開会にあたり、協会発起人である「大洲サイクリング倶楽部」代表の小林幸雄^{ゆきお}さんが「現在、愛媛県では自転車新文化としてサイクリングの普及に取り組んでいる。大洲市においても、サイクリングの振興を通して地域の活性化に寄与したい」とあいさつしました。

この大洲市サイクリング協会では、サイクリングの普及、振興のため各種イベントが企画されています。



ツール・ド・ひじかわ2017

～金山出石寺開山1,300年古のロード編～

【日 時】10月15日(日)

開会式 午前8時～ ※受け付け午前7時～

【出発到着】大洲まちの駅あさもや

【募集人員】

▽上級：150人(18歳以上) 参加費4,000円

▽中級：50人(中学生以上) 参加費3,000円

【コース(予定)】

▽上級：100km程度

(あさもや～長浜～櫛生～長浜～豊茂～出石寺～平野～フラワーパーク～菅田～富士山～あさもや)

▽中級：50km程度

(あさもや～長浜～櫛生～長浜～あさもや)

【募集期間】

8月上旬～9月上旬

【応募方法】

スポーツエントリーから応募してください。

<https://cycle.spoen.jp/>

【問い合わせ先】

大洲市サイクリング協会事務局 ☎57-9989

地域の情報をいち早く

6月19日(月)、大洲郵便局と大洲市の「きらめく〴〵おおず」地域協力協定の締結式が、市役所で行われました。清水市長は「大洲市の中山間地域では、人口減少が進んでいる。郵便局と連携することで情報をいち早く入手し、住民サービスの向上を目指したい」とあいさつしました。

この協定により、郵便局より情報が提供され、不法投棄の防止や、高齢者の安全の確保、孤独死の防止が期待されます。



いざという時のために

6月30日(金)、NTTタウンページ(株)四国営業本部長の松本四朗さん他関係職員3人が来庁し、「愛媛県南予版タウンページ」および「南予版防災タウンページ」の贈呈式が、市役所にて行われました。防災タウンページには、避難場所などの情報や、災害の備え・対処の方法などが掲載されています。いま一度、情報の確認を行い、防災意識を向上させましょう。



「知事とみんなの愛顔でトーク」開催

6月29日(木)、「知事とみんなの愛顔でトーク」が、内子町共生館で開催されました。会場には南予5市町のさまざまな職種の11人が集結し、知事との意見交換が行われました。大洲市からは3人の代表者が率直な意見を知事に直接提案し、それに対し、知事が直接回答しました。

知事からは、「問題点を調査・整理し、クリアできれば、ぜひ実行してみたい」という積極的な回答などもありました。



濱田 毅さん

提案：「肱川あらしを世界自然遺産へ」「歌『肱川あらし』を紅白出場へ」「天然トラフグの肝臓を使った商品開発研究・免許制度の改革」



奥田 稔さん

提案：「高校生の資格取得を県内で広域化し、それに対しての支援」「将来の子どもたちへの二輪車を使った安全教育の推進」



井上 往美さん

提案：「大洲駅前開発の活性化、パークアンドライドの推進」「サイクリングロードの改善策」



③ ② ①
7日 6日 5日

【今月のクイズ】
7月から8月の間、大洲で
花火が上がる日は何日あるで
しょうか。

大洲の8月と言えば、毎年8月3日、4日に開催される大洲花火大会ですね。もともとは、弁天様、住吉様の縁日に由来して始まった花火大会。2日間で、約4000発の花火が大洲の夜空を彩ります。

8月の大洲はさまざまな場所で大洲の花火が上がり、日本一の爆音と言われる鹿野川花火大会もあります。大洲の花火大会を巡ってみたら、楽しそうですね。

毎年恒例のうかい開きや、全国鵜飼サミット、夏井いつきさんの記念講演など、どのイベントも大盛況で、無事終了しました。

昔は、2人で乗る場合でも、船を貸し切って乗ることしかできなかったのですが、現在は乗合船も登場し、少人数でもうかいを楽しめるようになりました。うかいには大洲の魅力がたくさん詰まっています。みなさんも体験してみてください。

※今月号のクイズの答えは、広報おおす9月号に掲載します。

正解：③



【7月号のクイズ解答・解説編】
大洲うかい60周年を記念して、新しく誕生したプレミアムな屋形船の名前はなんでしょう。

① 肱川あらし号
② マッハGO号
③ 臥龍一號

野鳥

クロサギ（黒鷺）
コウノトリ目 サギ科
全長 62cm



海岸に生息するサギの仲間です。磯の水際で小魚や小動物を捕食するため、がっしりとした足をしています。

四国で出会えるクロサギはすべて黒色ですが、南西諸島へ行くとコサギのような白色のクロサギも生息します。赤道を中心に南はオーストラリア、北はミクロネシア、東南および東アジアに生息して、温かい地域ほど白い個体が多く、日本ではほとんど黒いため、この名前が付いたようです。

小川などで出会うコサギと近縁で、海に進出したものと、川に依存したものとに進化の過程で分かれ、上手に住み分けをしています。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト④

文化財

出石寺のカツラ
大洲市指定天然記念物
出石寺所有



金山出石寺は、境内が瀬戸内海国立公園に属し、県の名勝にも指定されています。このカツラは、この出石寺参道のそば（標高約720m）に、自生しています。根回り周10.2m、幹周6.4m、推定樹高は約20mを測り、推定樹齢は約500年を数え、出石寺境内では最大の巨木です。

カツラは、街路樹や公園樹として多く植栽されていて、普段目にする事の多い樹木です。しかし、四国内では標高約700m以上の高地で自生する傾向があり、その数もきわめて少ないとされます。

本樹の主幹2本は、いずれもすでに枯死していますが、株立ちした3幹が健在で、多くの葉を茂らせています。カツラとしては県内有数の古木かつ巨木とされ、また、市内では唯一、天然記念物に指定されています。

（昭和46年3月30日指定）